

# トポス. vol. 54

常磐大学学報 2009 Autumn

未来が求める、その先の学び舎へ！

◎学校法人常磐大学100周年記念事業

## 世界を視野に入れた記念事業を展開

「第13回国際被害者学シンポジウム」開催



●国際被害者学シンポジウムには47の国と地域から約500名の研究者らが参加。最新の研究発表や世界各地の現状報告が活発に行われた6日間となった。

「第13回国際被害者学シンポジウム（世界被害者学会主催）」が、共催者である常磐大学をメイン会場として、8月23日から8月28日までの6日間開催され、47の国と地域から被害者学研究者や実務家ら約500名が、一堂に会した。

常磐大学はこれまでも被害者学の教育・研究に積極的に取り組み、1983年の常磐大学開学時より被害者学関連の講座を開設。1995年には被害者学の講義を担当する教員らが中心となり民間ボランティア団体「水戸被害者援助センター（現：社団法人いばらき被害者支援センター）」を組織した。また2003年には国際被害者学研究所を開設し、2006年より世界被害者学会会長を務めるジョン・ドゥーシッチが所長に就任し現在に至っている。国際被害者学シンポジウムは、1973年にエルサレム（イスラエル）で第1回大会が開催されてから、3年に1度の会期で継続的に開催。今大会は国内で2度目、27年ぶりの開催となる。今大会のテーマは「被害者学と人間の安全（Victimology and Human Security）」。

水戸をアジアの被害者学の拠点にするための、確かな一歩を踏み出した。（関連・2面、3面）



### 次々と開催される100周年記念事業

学校法人常磐大学は10月17日、寺島実郎氏をお招きして開学100周年記念講演会を開催した。寺島氏は、財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長、株式会社三井物産戦略研究所会長を兼務する傍ら、数多くの著書やテレビ出演などでも知られている“全体知の思想家”だ。講演のテーマは「世界の構造転換と日本—そして大学の進路」。今後の日本と大学の向かうべき進路についてお話を伺った。また、11月22日には記念式典のほか、高等学校、短期大学、大学、大学院の卒業生および修了生全員を対象としたホームカミングデーが開催される。「時を超え、世を超えて、つなごう 常磐の輪（ときわ）」をテーマに、ミニコンサートや懇親会などが企画されている。



常磐女子高等学校  
（現・常磐大学高等学校）校舎外観  
〈1959年〉 \*解説=12p

# 第13回国際被害者学シンポジウム開催・テーマ「被害者

## ●被害者参画プログラム・市民フォーラムをプライベートとして開催

第13回国際被害者学シンポジウム日本開催記念プライベートとして、8月23日、常磐大学で市民フォーラムが開催された。第1部で取り上げたのは2008年12月から導入された「刑事裁判への被害者参加制度」。全国犯罪被害者の会（あすの会）顧問弁護士団、NPO静岡犯罪被害者支援センター副理事長などを務める白井孝一弁護士を講師としてお招きし、被害者参加制度の利用の仕方や被害者参加手続きの流れについて解説していただいた。続いて行われたパネルディスカッションには被害者遺族として、制度導入前に裁判を経験した薩美真子さん・尾立由美子さん・鈴木直



▲会場の参加者は2組の裁判体験に熱心に耳を傾けていた。

子さん姉妹と、制度導入後に裁判を経験した澤田容之さん・美代子さん夫妻が参加。薩美さんら姉妹は「制度を利用して裁判をやり直したい」と声を詰まらせ、澤田さんは、制度を評価しつつも「利用する際は被害者参加弁護士を必ず依頼すべきだ」と実体験から語った。

市民フォーラムの第2部では「さまざまな被害者の声」と題して3名の被害者がそれぞれ異なる被害体験

や思いを語った。続いて、シンポジウムのパネル展示に参加する全国の被害者団体の活動などが紹介され、被害者の活動が地域や全国レベルで広がっていることを感じさせた。

## ●タイ王国王女殿下も招いた開会式で、国際被害者学シンポジウムが開幕



▲タイ王国のパチャラキティヤパー王女殿下(中央)、諸澤英道理事長(左)、世界被害者学会のジョン・ドゥーシツチ会長(右)。



◀岡村勲氏

第13回国際被害者学シンポジウム開会式が8月23日、水戸プラザホテルで開催された。出席したのは世界中から集まった研究者や実務家、また学生などの被害者学関係者。今回は来賓としてタイ王国のパチャラキティヤパー王女殿下 (HRH Princess Bajrakitiyabha) も出席し、この大会のアジアにおける重要性を物語っていた。

式は、シンポジウム組織委員会委員長を務める諸澤英道理事長の開会宣言で開幕。諸澤理事長は、会場に集まった参加者たちに歓迎の意を表し、「この大会が被害者学の発展に寄与するステップとなることを希望する」と語った。

また、特別講演ではパチャラキティヤパー王女殿下がタイにおける被害者支援の現状を解説。子どもと女性に対する暴

力や人身売買にまで言及し、「被害者に対する人権保護の国際規範を強化することでタイの状況も改善していく」と述べ、国際コミュニティが協調する必要性を訴えた。続いて全国犯罪被害者の会（あすの会）代表幹事の岡村勲氏が講演。97年に妻を殺害されて以来、被害者の権利回復に携わってきた岡村氏は、犯罪被害者等基本法が制定されるまでの道のりを振り返り「被害者が声を上げるのは大変なこと、その前に法整備をお願いしたい」と語った。最後に、国連難民高等弁務官事務所駐日代表のヨハン・セルス (Johan Cels) 氏が講演を行い、「国連での取り組みを被害者学の視点で捉えるとどうなるのか、学ぶところが大きい」と被害者学と難民問題の接点を探る意欲を見せていた。

■ 第13回国際被害者学シンポジウム開催

# 学と人間の安全 (Victimology and Human Security) 」

## ● 国際的視点に立って「被害者学」を考える、全体会とそれぞれのセッション



今大会で掲げたメインテーマは「被害者学と人間の安全 (Victimology and Human Security)」。これまで被害者学が扱ってきた領域をさらに「人間の安全」という概念で推し進め、多様で急激な変化にさらされている現代のニーズに、地域や国など国際的なレベルで、よりの確に答えようとする意図で設定された。

シンポジウムでは、計8回の全体会が行われ、それぞれの専門分野から被害者を取り巻く課題への提言がなされた。

〈全体会 (基調講演)〉 ※講演順

- 1. Rianne Monique Letschert, Ph.D.** (オランダ)  
オランダ・ティルバーグ大学准教授。  
同大学国際被害者学研究所 (INTERVICT) 研究部長。
- 2. Nils Christie, Ph.D.** (ノルウェー)  
ノルウェー・オスロ大学法学部教授。同大学刑事法研究所所長。
- 3. Dean G. Kilpatrick, Ph.D.** (アメリカ)  
アメリカ・サウスカロライナ医科大学教授 (臨床心理学)。  
同大学全米犯罪被害者研究・治療センター所長。
- 4. 滝澤 三郎 Saburo Takizawa** (日本)  
東洋英和女学院大学教授。国連大学客員教授。  
国連難民高等弁務官事務所駐日事務所前代表。
- 5. Heather Strang, Ph.D.** (オーストラリア)  
オーストラリア国立大学修復的司法センター所長。  
ケンブリッジ大学犯罪学研究所上級研究員。
- 6. 能登 千織 Chiori Noto** (日本)  
北海道白老町学芸員。社団法人北海道アイヌ協会会員家族。
- 7. Murray Straus, Ph.D.** (アメリカ)  
アメリカ・ニューハンプシャー大学社会学教授。  
同大学家族問題研究所共同代表。
- 8. Jane Nady Sigmon, Ph.D.** (アメリカ)  
アメリカ・国務省人身売買監視対策室国際プログラム調整官。  
司法省犯罪被害者対策室初代所長。

8月24日には、「日本政府による犯罪被害者等施策の推進」と題して内閣府、警察庁、法務省の各担当者による特別セッションが行われた。内閣府担当者からは、犯罪被害者等施策の推進状況や内閣府の主な担当施策について説明がなされたほか、警察庁の担当者からは、犯罪被害者給付金制度や捜査過程における被害者の負担軽減に対する取り組みが紹介された。また、法務省担当者は、犯罪被害者等の権利利益の保護を図るための刑事訴訟法の一部を改正する法律などについて解説した。発表後は活発に質疑応答も行われ、被害者支援に関する日本の現状を国際的な場で紹介するよい機会となった。

また、8月26日の午後には、4つのコースに

分かれて水戸市周辺の関係機関への視察が行われた。視察先は、茨城県警察本部、水戸地方検察庁および水戸地方裁判所、法務省少年院「水府学院」、茨城県福祉相談センターである。参加者たちは、実際の担当者から説明を聞き、現場を見学したことにより、被害者学に関する理解を深めることができた。

会期中には35の平行セッションで181件の論文発表がされたほか、31件のポスターセッションも行われた。参加者たちは被害者の現状や救済方法などについて多くの情報を得ることができたとともに、世代や国や地域、専門分野を超えた参加者相互のネットワークを構築した。



▲投げかけられるさまざまな質問に、各担当者は、たくさんの資料に目を通しながら丁寧に答えていた。

◀ 掲示物で研究発表を行うポスターセッションも、多くの人たちの関心を集めていた。

●企業の動向

2010年卒採用は、大手企業を中心に採用活動を一段落したように見受けられる。「優秀な人材であれば欲しいが、そうでなければ採用計画通りにならなくても無理に採用しない」といった経営トップの考えが、2010年採用を表しているといえる。多くの企業が例年よりも早い時期に採用活動を終えたため、2011年卒採用の計画は前倒し、かつ周到になっている様子が伺える。2011年卒採用の就職活動時期の早期化が懸念される。

●学生の動向

未内定者はもちろんのこと、内定を得た学生でも就職活動を継続しており、2010年卒業予定者の就職活動が長期化している。企業側からの学生評価としては、「学生の就業意識が低い」といわれている。社会人として自覚をもち、採用したいと思わせる学生が少ないと感じたようである。多少漠然としても「なんでもやります」という意欲が必要ではないか。「なにがしたい」ではなく「なにができます」で企業を選ぶことも現在の状況では必要であると思われる。自己分析をしっかりと客観的に自分を見つめ直すことが、エントリーシートの志望理由、自己アピールにつながっていき、内定を勝ちとる道ではないか。

●キャリア支援の取り組み

例年、秋以降に地元企業の採用募集が出てくるので、学生に周知し、確実に内定を取るよう指導していく。特に未内定の学生に対しては、企業の筆記試験、面接試験などについて個別指導を行っていく。

また、学内会社説明会を開催し、採用企業と学生のマッチングの機会を提供していくとともに、地元企業の開拓をさらに進めていく。



## 「人間の安全 (Human Security)」と教育

常磐大学ではこの夏、国際被害者学シンポジウムが盛会に行われ、キャンパスは世界各地から訪れた参加者たちで連日賑わった。今回掲げられたテーマは、「被害者学と人間の安全」であったが、「人間の安全 (Human Security)」は、教育の観点からも主要なテーマで、私も期間中の6日間毎日聴講した。いずれも示唆に富み、厚みのある内容で、考えさせられることが多かった。

「人間の安全」、確かに今の日本は、地球的規模で見れば社会全体が希有なほど安全な国といえるかもしれない。紛争地域での殺戮や人身売買、移民や不法入国に関連した暴力や日常的レイプ、発展途上国の食糧問題など、基調講演や研究発表、それに続く質疑応答から生の情報に接して、世界には思った以上に深刻な問題があることを改めて認識した。

8月24日に基調講演を行ったティルバーグ大学(オランダ)のレッチェルト氏は、人間の安全について「経済」「食料」「健康」「環境」「共同体」「政治」「個人」という7つの点をあげ、これらを包括的にとらえて、国家的援助(top-down)と同時に、被害を受けている一人ひとりの個人に注目したbottom-upの援助をしなければならない、と強調している。

## 内定者レポート



中央労働金庫 内定

大森 剛

国際学部  
国際関係学科4年

### ファイナンシャルプランナーの 資格取得が現在の目標です

**入** 学当初から、就職のことは意識していましたが、実際に活動を開始したのは3年の夏頃です。就職情報サイトに登録して企業情報の閲覧から始め、10月には100社程度にエントリーしました。就職希望業種は金融業と住宅メーカー。自分に自信をつけようと取得していた「宅建（宅地建物取引主任者）」の資格を仕事に活かそうと考えたからです。

選考は住宅メーカーが先に始まったのですが、そう甘くはありませんでした。立て続けに2、3社落ちて、本当に就職できるのかどうか不安になったこともあります。しかし金融業の選考は、比較的順調に進みました。自分らしさを全面に押し出し、挨拶などの基本を重視した活動が良かったのかもしれない。現在は在学中に「ファイナンシャルプランナー」の資格を取得して、仕事に役立てたいと考えています。



株式会社イバデン内定

飯塚 詩織

短期大学  
キャリア教養学科2年

### 就職活動は厳しかったですが 短大での授業が役に立ちました

**就** 職活動を終えて感じたことは、かなり厳しい環境だったということです。どの企業も求人数が少なく、なかなか内定をいただくことができませんでした。いま思えば、もう少し早くから活動を始めれば良かったと反省しています。就職活動を意識したのは1年生の秋。キャリア支援担当主催の「就職支援バスツアー」で、東京ビッグサイトで行われる企業の合同説明会に参加したことがきっかけです。会場には多くの学生が集まっていて、とても刺激を受けました。

就職活動では「キャリアガイダンス」の授業が役に立ちました。一般常識、SPI、エントリーシートの書き方を学ぶので、筆記試験対策になりました。また、「秘書学演習」も社会人のマナーが身につくので、面接に役立つ授業でした。来年の春からは社会の一員として、しっかり自立していきたいと思っています。

## 諸澤 篤子 [学校法人常磐大学 常任理事（一貫教育担当）]

この点に関して日本に立ち戻ってみると、日本は制度上安全が整っているかに見えるが、「個人」に注目したとき、果たして「人間の安全」が保証されている国と言えるだろうか。年金は老後を保証し、教育は個人が十分に発展することを支え援助しているといえるだろうか。

日本で生活する外国人からよく耳にすることは、なぜ日本の若者は学ぶ意欲がなく、大学に入っても知的好奇心を示さないのだろう、なぜ学業を終えて成人になっても自信をもてず自分の考えをしっかりと表明していくことができないのだろうか、ということである。

人は皆、自分自身を発展させ、尊厳を持って幸せな生涯を全うする権利を持っているのではないか。教育は子どもたち一人ひとりがこれを実現できるように支援するべきものである。それには、やはり制度を整え改革し、良い教育を目指す社会的価値観を作り上げて行かなければならない。これからの教育の課題はここにある。

## 食と健康フォーラム開催

● 食と健康を科学的に考え食生活の改善を提言



健康・栄養・情報の拠点として地域の健康に貢献するため、常磐大学人間科学部健康栄養学科主催の『食と健康フォーラム』が6月20日に開催された。今回、基調講演の講師としてお招きしたのは、国立がんセンターの津金昌一郎氏。がん予防研究の立場から「食と健康」をテーマに講演が行われた。津金氏は、がんだけではなく生活習慣病なども含めた総合的な食と健康について講演。研究に基づく健康情報の個別の種類と質を見極めることが大切だとし、多くのデータを示しながら科学

的に食と健康の関連性を解説した。また、厚生労働省より佐々木昌弘氏もお招きし、行政の立場から食品の安全対策を説明していただいた。

その後、健康栄養学科の秦順一教授をコーディネーターとしたパネルディスカッションが行われた。パネラーは、前出の津金氏、佐々木氏に加え、コーヒー文化学会常任理事・株式会社サザコーヒー代表取締役会長の鈴木誉志男氏、健康栄養学科の高橋征子教授の4名。「よりよい食生活のために」をテーマに、それぞれの立場からご意見をいただき、質疑応答も活発に行われた。

会場には地域住民ら約140名が集まり、食と健康に対する関心の高さがうかがえた。



津金昌一郎氏

つがね・しょういちろう ●慶應義塾大学大学院医学研究科修了。国立がんセンター研究所室長、同研究所臨床疫学研究部長を歴任し、現在は国立がんセンターがん予防・検診研究センター予防研究部長。

## 男子バスケットボール部インターハイ初出場!

● 平成21年度全国高等学校総合体育大会結果報告

奈良県を中心に行われた2009年度のインターハイ。常磐大学高校より4種目に出場し2種目で入賞を果たした。特に、フェンシングで2年前にもエペの優勝経験のある鬼澤君が、今度はフルーレでも優勝する活躍をした。体操男子は、2年連続団体5位入賞。個人種目では3年連続で上位入賞を果たした。あん馬3位の佐藤君は「今後も体操を続けていくので更に上のレベルに入れるよう新たな目標に向け努力したい」と力強く語った。



↑鬼澤大真君

「今回は最後のインターハイでもあったので、自分自身をしっかりコントロールすることを心がけ、フェンシングというスポーツを楽しもう、という意識で戦いました」

女子も健闘し決勝まで進出した。初出場の男子

バスケットボール部は、初舞台での1勝を目指したが、全国大会常連校の盛岡市立に力及ばず敗退した。水泳女子100m平泳ぎに出場した稲田実紗も予選通過を目指したが目標達成はできなかった。



↑女子水球部

「多少のミスがあったものの、それぞれが満足できる内容で決勝進出することができました」



↑男子バスケットボール部インターハイ初出場。全国1勝は今後の目標!

- フェンシング男子個人フルーレ/優勝、同男子個人エペ/第3位 鬼澤 大真
- 体操男子団体総合/第5位 小友 翔太郎、佐藤 宏太、檜山 和真、小田 勝朗
- 体操男子個人種目別 跳馬/第3位 檜山 和真、あん馬/第3位 佐藤 宏太
- 体操女子団体総合/16位 井坂 梨乃、門脇 茜、池延 美友紀、佐藤 海里

## 智学館中等教育学校

NEWS\*

## 草原の輝き

## ● 自然探究旅行

「初めて」という言葉が智学館ではさわやかな響きを放つ。7月8日と9日、2年次の生徒たちが常陸大宮市(旧緒川村)に「初めて」1泊の自然探究旅行に出かけた。学校から2時間ほどの山間の村である。先生方の熱意があふれる盛りだくさんの計画を生徒たちは難なくこなし、先生方も一緒になって、よい汗を流した。

初日には、まず、知的障害者入所施設「やまびこ厚生園」を訪れた。施設の方々が春に植えた種いもが、いま収穫のときを迎え、土を盛り上げている。生徒たちは入所者の皆さんと歓声をあげながら、そして、先生方も童心にかえてじゃがいも掘りに汗を流した。午後は野外スポーツ、そして、夕刻からはバーベキュー。豊富な自然の恵みを料理して空腹を満たし、作業や運動で燃やしたエネルギーを補給した。

翌日は、地元農業者による、自然農業について



の講演に耳を傾けた。午後は、2班に分かれ、「智学館の森」をめぐる自然探究ハイキング、特別養護老人ホーム「おがわ」を訪問して、千羽鶴を贈呈し、合唱を披露した。

そして、全員が智学館の森に合流し帰路についた。

このように生徒たちが自然の要素になることが、最近では欠如しているように思われる。大人になるにつれて自然と人間の間に垣根が作られてしまうからである。

「草地も森も小川も大地も、目に映える光景すべてが、私には天上の光に包まれていたかのようだった」と、イギリスの自然詩人は子どものころを思い起こして詠んでいる。

## 常磐大学幼稚園

NEWS\*

## 開園40周年記念オリジナルソングCD収録!

## ● 開園40周年記念合唱団「ときわっこ」活動報告

2008年9月に団員を募集し、常磐大学幼稚園を修了した小学1年生から3年生43名が集まり、明けて2009年1月から、月に一度のペースで練習を重ねて来た。

在園中歌い継がれてきたオリジナルソング11曲を、3グループに分かれて練習した。団員の子どもたちは、曲のイメージを大切にしながら、繰り返し歌った。

基礎的な歌唱訓練も受けていないところからのスタートだったが、まずは、一人ひとりに歌を収録したCDを配り、音やリズムをつかみながら歌詞を覚えてもらうようにした。

練習回数も十分とれない中にもかかわらず、回を重ねるごとにしっかりとした歌声になっていった。

6月には、元常磐短期大学幼児教育保育学科教授の竹中治利先生から、簡単な発声方法や楽しく歌えるコツをご指導いただき、今まで歌ってきた歌がより一層身近なものとしてとらえられ、8月には無事、CDの収録を終えることが出来た。それぞれのグループにはカラーがあり、一人ひとりの良さを伝えながら進めてきた。「楽しかった」と感じてもらった「ときわっこ」の活動であったなら幸いである。



(常磐大学情報メディアセンター・バーチャルスタジオで撮影。)

# 2008年度財務状況報告

2008年度は、智学館中等教育学校の開校と常磐大学人間科学部に健康栄養学科が開設され、本学にとって新たな門出となった。そのために施設・設備関係支出の実績が目立ったが、それらはすべて自己資金で賄い第1号基本金の増額へとつながっている。しかし、昨年同様帰属収入に対する消費支出が超過し、次年度への繰越金が減額となる結果となった。

全体的には、各種財務指標を取ってみても本学の財務的な安全性・安定性については問題なく、今後の無借金経営の継続が予測される。

留意する点としては、少子化による学生生徒納付金収入減と米国の金融危機の影響による資産運用収入の対前年比減額の点である。学生募集の強化に力を注ぐとともに、寄付金や外部資金の導入など新たな収入の道を探る努力を続けなければならない。

◎2008年度決算は、5月22日の理事会で決議され、同日、評議員会へ報告された。

## ■貸借対照表 2009年3月31日

(単位:千円)

区 分	2008年度末	2007年度末	増 減
固 定 資 産	25,805,452	25,830,094	△ 24,642
有 形 固 定 資 産	22,523,838	22,058,131	465,707
土 地	4,361,913	4,270,324	91,589
建 物	13,869,133	12,278,495	1,590,638
構 築 物	1,512,851	1,468,562	44,289
教 育 研 究 用 機 器 備 品	791,610	817,684	△ 26,074
そ の 他 の 機 器 備 品	92,449	98,698	△ 6,249
図 書	1,888,077	1,836,570	51,507
車 輜	7,805	5,292	2,513
建 設 仮 勘 定	0	1,282,506	△ 1,282,506
そ の 他 の 固 定 資 産	3,281,614	3,771,963	△ 490,349
借 地 権	15,563	563	15,000
電 話 加 入 権	5,017	5,017	0
施 設 利 用 権	8,686	8,242	444
敷 金	1,472	1,414	58
差 入 保 証 金	300,001	301,532	△ 1,531
有 価 証 券	1,949,675	1,949,675	0
第 2 号 基 本 金 引 当 資 産	1,000,000	1,504,320	△ 504,320
第 3 号 基 本 金 引 当 資 産	1,200	1,200	0
流 動 資 産	4,440,212	4,853,576	△ 413,364
現 金 預 金	4,347,913	4,741,711	△ 393,798
未 収 入 金	92,299	97,381	△ 5,082
仮 払 金	0	14,484	△ 14,484
資 産 の 部 合 計	30,245,664	30,683,670	△ 438,006
固 定 負 債	769,206	781,128	△ 11,922
退 職 給 与 引 当 金	769,206	781,128	△ 11,922
流 動 負 債	978,409	950,236	28,173
未 払 金	69,510	53,985	15,525
前 受 金	908,899	896,251	12,648
負 債 の 部 合 計	1,747,615	1,731,364	16,251
基 本 金	33,875,751	33,120,244	755,507
第 1 号 基 本 金	32,467,462	31,217,504	1,249,958
第 2 号 基 本 金	1,000,000	1,504,320	△ 504,320
第 3 号 基 本 金	1,200	1,200	0
第 4 号 基 本 金	407,089	397,220	9,869
消 費 収 支 差 額	△ 5,377,702	△ 4,167,938	△ 1,209,764
翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	△ 5,377,702	△ 4,167,938	△ 1,209,764
負 債 の 部、基 本 金 の 部 及 び 消 費 収 支 差 額 の 部 合 計	30,245,664	30,683,670	△ 438,006



## ■資金収支計算書 2008年4月1日から2009年3月31日まで

### 収入の部

(単位:千円)

科 目	2008年度予算	2008年度決算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,954,085	4,110,730	△ 156,645
手 数 料 収 入	91,617	103,153	△ 11,536
寄 付 金 収 入	30,000	6,048	23,952
補 助 金 収 入	934,078	1,004,142	△ 70,064
(国庫補助金収入)	524,664	546,503	△ 21,839
(地方公共団体補助金収入)	409,414	457,639	△ 48,225
資 産 運 用 収 入	228,678	174,440	54,238
資 産 売 却 収 入	200,000	105	199,895
事 業 収 入	68,061	71,280	△ 3,219
雑 収 入	50,452	120,830	△ 70,378
小 計	5,556,971	5,590,728	△ 33,757
前 受 金 収 入	942,245	908,899	33,346
そ の 他 の 収 入	597,381	603,232	△ 5,851
資金収入調整勘定	△ 896,251	△ 995,069	98,818
前年度繰越支払資金	4,741,711	4,741,711	0
収入の部合計	10,942,057	10,849,501	92,556

### 支出の部

(単位:千円)

科 目	2008年度予算	2008年度決算	差 異	
人件費支出	給与支出	3,343,576	3,235,690	107,886
	退職金等支出	51,393	123,538	△ 72,145
教育研究経費支出	1,521,765	1,308,634	213,131	
管理経費支出	595,403	490,209	105,194	
施設関係支出	1,210,622	1,208,995	1,627	
設備関係支出	185,273	149,989	35,284	
資産運用支出	200,000	0	200,000	
小 計	7,108,032	6,517,055	590,977	
そ の 他 の 支 出	53,985	54,043	△ 58	
予 備 費	30,000		30,000	
資金支出調整勘定	0	△ 69,510	69,510	
次年度繰越支払資金	3,750,040	4,347,913	△ 597,873	
支出の部合計	10,942,057	10,849,501	92,556	

## ■消費収支計算書 2008年4月1日から2009年3月31日まで

### 消費収入の部

(単位:千円)

科 目	2008年度予算	2008年度決算	差 異
学生生徒等納付金	3,954,085	4,110,730	△ 156,645
手 数 料	91,617	103,153	△ 11,536
寄 付 金	30,000	12,813	17,187
補 助 金	934,078	1,004,142	△ 70,064
(国庫補助金)	524,664	546,503	△ 21,839
(地方公共団体補助金)	409,414	457,639	△ 48,225
資 産 運 用 収 入	228,678	174,440	54,238
資 産 売 却 差 額	0	56	△ 56
事 業 収 入	68,061	71,280	△ 3,219
雑 収 入	50,452	120,830	△ 70,378
帰 属 収 入 合 計	5,356,971	5,597,444	△ 240,473
基本金組入額合計	△ 785,755	△ 755,506	△ 30,249
消費収入の部合計	4,571,216	4,841,938	△ 270,722

### 消費支出の部

(単位:千円)

科 目	2008年度予算	2008年度決算	差 異	
人件費	給 与	3,343,576	3,235,690	107,886
	退 職 金 等	74,287	111,617	△ 37,330
教育研究経費	2,293,726	2,083,430	210,296	
管理経費	715,593	614,205	101,388	
資産処分差額	0	241	△ 241	
徴収不能引当金繰入額	0	6,519	△ 6,519	
予 備 費	30,000		30,000	
消費支出の部合計	6,457,182	6,051,702	405,480	
当年度消費支出超過額(△)	△1,885,966	△1,209,764		
前年度繰越消費支出超過額(△)	△4,167,938	△4,167,938		
翌年度繰越消費支出超過額(△)	△6,053,904	△5,377,702		



# 2008年度 事業報告

## 教育研究関連事業

1. 常磐大学・常磐短期大学改組  
人間科学部心理学科(定員90名)、教育学科(同40名)、健康栄養学科(同80名)、国際学部経営学科(同70名)の設置。
2. 短期大学電算教育システム更新  
内容 短期大学における既存のパソコン教室(Qs棟204教室、Qs棟305教室およびQs棟PC学習室)設置機器に対するシステム更新を実施。
3. 健康栄養学科パソコン室設置  
内容 2008年度健康栄養学科の設置に伴い、健康栄養学科の学生に対する情報処理教育を行うため、A棟3階にパソコン室を設置。
4. 智学館中等教育学校設置  
内容 2008年4月5日 入学式挙行。  
(入学定員:1学年120名、6年制 収容定員:720名、入学者:92名)

## 法人関連事業

1. 「智学館中等教育学校」開校記念式典  
日時 2008年4月26日  
場所 中等教育学校内  
内容 記念式典、祝賀会。
2. 第13回国際被害者学シンポジウムホームページの開設および運営  
内容 第13回国際被害者学シンポジウムの情報提供、広報および宣伝ならびに参加登録および論文投稿の窓口として活用するためのホームページを開設し、運営。
3. 常磐短期大学の第三者評価実施  
期日 書面調査 2008年7月から8月まで  
訪問調査 2008年10月1日から10月3日まで  
評価結果通知 2009年3月24日(結果:適格)  
内容 財団法人短期大学基準協会評価員による書面調査および訪問調査(面接、学内視察等)の実施。
4. 監査機能の強化  
内容 法人監査機能の充実を図るため、「学校法人常磐大学内部監査規程」および「学校法人常磐大学監事監査規程」を制定するとともに、監査室を設置。

## 地域連携関連事業

1. 第23回国民文化祭・茨城2008への協賛  
内容 県、自治体等との地域連携の足がかりとして、県や自治体が展開する文化振興活動に参加し、イメージ向上を図るとともに、県内を中心に全国規模での本学の広報活動の展開および開学100周年の周知を図る。
2. 市町村・産学連携
  - 1) 日立市との連携協力協定締結  
調印式 2008年4月30日
  - 2) 社団法人茨城県経営者協会「産学連携講座」開設(2年目)  
目的 茨城県を代表する企業経営者および管理者による講義を通じ、地域経済の実態と各社の実践する経営活動等について理解を深めるとともに、社会人として必要な心構えや能力を育成する。  
調印式 2008年4月9日

- 3) 読売新聞水戸支局・常磐大学連携事業「連続市民講座」  
内容 地域の人々と大学を結び、幅広い年代の学ぶ意欲に応じていく試みとして、読売新聞水戸支局との共催により、「地域社会の安心・安全・安定を考える」を大きなテーマとして、全13回の講座を開催。  
開講式 2008年4月19日

## 施設・設備整備事業

1. 校地購入
  - 1) 見和地区用地取得  
茜梅寮(学生寮)敷地(7年計画6年目)。水戸市土地開発公社所有地の購入。  
① 位置:水戸市見和1-449-20  
面積:1,032.89㎡
  - 2) 小吹地区用地取得  
小吹グラウンドの土地の購入。将来的に、部室等の増築が必要になることが考えられるため、現在賃貸借契約を締結している小吹グラウンドの一部の土地を購入。  
① 位置:水戸市小吹町2088-12  
面積:43.00㎡  
② 位置:水戸市小吹町2083-2  
面積:1,813.00㎡
2. 校舎改修
  - 1) A・B・J・N棟改修工事  
内容 A棟およびB棟外装の塗装、屋上の皮膜防水張替工事、B棟およびN棟空調設備の更新、B棟内改修およびJ棟内エレベータ設置。
  - 2) K棟改修工事(Ⅲ期)  
内容 Qs棟整備およびK棟1階整備に伴う既存教室およびK棟2階の学部共用スペースへの改修。
  - 3) 小吹グラウンド整備工事  
内容 グラウンド東面および北面に擁壁およびフェンス設置工事、弓道場防矢ネットの修繕工事、グラウンド競技場の整備工事、競技場への鉄棒設置工事、工事に伴うグラウンド各所の既存樹の移植工事。
  - 4) 高等学校5・6号館および東館改修工事  
内容 5・6号館の教室改修工事、廊下等修繕工事、電気設備工事および衛生設備工事、東館を合宿所として利用するための改修工事。

# 2008年度 理事会・評議員会報告

## 第1回 評議員会 2008年5月23日 (金)

### < 諮問 >

- 第1号 2008年度収支補正予算に関する件
- 第2号 学校法人常磐大学寄附行為の一部変更に関する件
- 第3号 常磐大学学則の一部変更に関する件

## 第1回 理事会 2008年5月23日 (金)

### < 議事 >

- 第1号 2007年度事業実績(案)に関する件
- 第2号 2007年度収支決算(案)に関する件
- 第3号 2008年度収支補正予算に関する件
- 第4号 学校法人常磐大学寄附行為の一部変更に関する件
- 第5号 学校法人役員等に関する規程の一部変更に関する件
- 第6号 学校法人常任理事規程の一部変更に関する件
- 第7号 常任理事の人事に関する件
- 第8号 常磐大学学則の一部変更に関する件

## 第2回 評議員会 2008年8月29日 (金)

### < 諮問 >

- 第4号 学校法人常磐大学寄附行為の一部変更に関する件
- 第5号 財団法人常陽明治記念会の資産取得に関する件

## 第2回 理事会 2008年8月29日 (金)

### < 議事 >

- 第9号 学校法人常磐大学寄附行為の一部変更に関する件
- 第10号 寄附行為第6条第1項第4号に規定する理事選任に関する件
- 第11号 役職者人事に関する件
- 第12号 財団法人常陽明治記念会の資産取得に関する件

## 第3回 評議員会 2008年12月4日 (木)

### < 諮問 >

- 第6号 常磐大学大学院学則の一部変更に関する件
- 第7号 常磐大学学則の一部変更に関する件
- 第8号 常磐短期大学学則の一部変更に関する件
- 第9号 常磐大学・常磐短期大学就業規則の一部変更に関する件
- 第10号 常磐大学高等学校就業規則の全面改正に関する件
- 第11号 智学館中等教育学校就業規則の一部変更に関する件
- 第12号 開学100周年記念事業に関する件

## 第3回 理事会 2008年12月4日 (木)

### < 議事 >

- 第13号 役職者人事に関する件
- 第14号 常磐大学大学院学則の一部変更に関する件
- 第15号 常磐大学学則の一部変更に関する件
- 第16号 常磐短期大学学則の一部変更に関する件
- 第17号 常磐大学・常磐短期大学就業規則の一部変更に関する件
- 第18号 常磐大学高等学校就業規則の全面改正に関する件
- 第19号 智学館中等教育学校就業規則の一部変更に関する件
- 第20号 学校法人常磐大学役員等に関する規程の一部変更に関する件
- 第21号 常磐大学学長等の選考および任免に関する規程の一部変更に関する件

- 第22号 学校法人常磐大学常任理事規程の一部変更に関する件
- 第23号 学校法人常磐大学給与規程の一部変更に関する件
- 第24号 開学100周年記念事業に関する件

## 第4回 理事会 2009年2月4日 (水)

### < 議事 >

- 第25号 役職者人事に関する件
- 第26号 寄附行為第6条第1項第1号に規定する理事の選任に関する件
- 第27号 寄附行為第25条第1項第1号に規定する評議員の選任に関する件

## 第4回 評議員会 2009年3月25日 (水)

### < 議事 >

- 第1号 寄附行為第25条第1項第4号に規定する評議員の選任に関する件

### < 諮問 >

- 第13号 学校法人常磐大学寄附行為の一部変更に関する件
- 第14号 常磐大学高等学校学則の一部変更に関する件
- 第15号 2009年度事業計画に関する件
- 第16号 2009年度収支予算に関する件

## 第5回 理事会 2009年3月25日 (水)

### < 議事 >

- 第28号 役職者人事に関する件
- 第29号 寄附行為第6条第1項第4号に規定する理事の選任に関する件
- 第30号 寄附行為第25条第1項第1号に規定する評議員の選任に関する件
- 第31号 寄附行為第25条第1項第3号に規定する評議員の選任に関する件
- 第32号 学校法人常磐大学寄附行為の一部変更に関する件
- 第33号 常磐大学高等学校学則の一部変更に関する件
- 第34号 学校法人常磐大学監事監査規程の制定に関する件
- 第35号 学校法人常磐大学給与規程の一部変更に関する件
- 第36号 2009年度事業計画に関する件
- 第37号 2009年度収支予算に関する件

常磐大学大学院  
常磐大学  
常磐短期大学  
常磐大学高等学校  
常磐大学幼稚園  
智学館中等教育学校

入学定員と在籍者数 [2009.5.1現在]

(単位:人)

	研究科・学部	学科・専攻	入学定員	収容定員	在籍者数
常磐大学大学院	人間科学研究科	人間科学専攻 博士課程 (後期)	6	18	4
		修士課程	10	20	16
	被害者学研究科	被害者学専攻 修士課程	20	40	12
	コミュニティ振興学研究科	コミュニティ振興学専攻 修士課程	20	40	6
常磐大学	人間科学部	人間関係学科 心理学専攻	—	—	1
		組織管理学科	—	—	1
		心理教育学科	—	380	214
		心理学科	90	180	182
		教育学科	40	80	83
		現代社会学科	80	380	324
		コミュニケーション学科	80	340	324
		健康栄養学科	80	160	152
	国際学部	国際協力学科	—	—	1
		国際関係学科 国際協力学専攻	—	154	64
		国際ビジネス学専攻	—	154	78
		経営学科	70	140	164
		英米語学科	60	252	168
	コミュニティ振興学部	コミュニティ文化学科	60	252	189
地域政策学科		60	252	190	
ヒューマンサービス学科		80	336	245	
常磐短期大学	キャリア教養学科	140	280	298	
	幼児教育保育学科	140	280	270	
常磐大学高等学校			600	1,800	1,206
智学館中等教育学校			120	240	178
常磐大学幼稚園			55	175	172

—表紙写真解説—

Tokiwa Memories  
\*6

鉄筋コンクリート校舎が一部完成したが、この頃はまだ木造の校舎も現役であった。高校では1956年～1964年の9年間で鉄筋コンクリート校舎を次々に完成させ、外観を一新。写真中央に写る石造りの門柱は、現在、生徒の昇降口へ移設され、今も生徒たちを出迎えている。

編集後記

開学100周年記念事業の中でも最大級のイベントの一つ「国際被害者学シンポジウム」も成功のうちに閉幕しました。世界各国から集まった被害者学関係者たちは、学術的な成果と日本の思い出を胸に、帰途についたことと思います。私たちがこのイベントを一過性のものにせず、常磐大学が被害者学のアジアの拠点となるよう、今後も努力を続けていきたいと思っています。

寄付者ご芳名 \*敬称略 [期間 2009年4月～7月]

ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。

◆一般寄付

寄付者	金額	寄付者	金額
諸澤 篤子 (常任理事)	40,000円	河野 公紀 (智学館中等教育学校教諭)	20,000円
竹中 治利 (常任理事)	30,000円	中崎 啓子 (評議員・短大卒業生)	100,000円
宮田 雅史 (寄付資産運用課統括)	120,000円	古瀬 知哉 (大学卒業生)	20,000円
江原 昌義 (常磐大学高等学校教諭)	120,000円		

寄付金のお願い

この寄付金は、学校法人常磐大学における教育および学術研究の充実、発展を目的としたものです。この寄付金を園児、生徒、学生の教育や教員の研究活動へ有効に利用させていただき、地域や社会に貢献する教育機関として一層の努力をしてゆく所存です。皆様の格別なご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、この寄付金は税制上の優遇措置を受けることができます。

◆寄付金の申込みおよび問合せ先

学校法人常磐大学 寄付資産運用課

TEL : 029-232-2759 E-mail : kifu@tokiwa.ac.jp

本学の寄付募集の詳細については、ホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.tokiwa.ac.jp/tokiwa/kifu/>

※寄付金の申込みは任意ではございますが、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。